〇議　事　日　程

平成３０年３月１９日（月）午前１０時開会

〇出　席　委　員　（８名）

委員長	眞　鍋　　昇	委員
	山　口　行　一	委員
	近　藤　彰　彦	委員
	谷　本　直　貴	委員
	岩　佐　聖　二	委員
	長谷川　敦　子	委員
	川　上　博　文	委員
	吉　岡　典　昭	委員

〇事務局

企画財政部部長	工藤恵司
企画財政部行財政管理監	今西麻之
企画課長	尾崎剛
広報広聴課長	宇都宮功
企画課主任	平祐徳
企画課	西田奈緒

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

◇　午前１０時００分　開会

○委員長　　それでは、おはようございます。

　定刻となりましたので、平成２９年度、第３回の守口市まち・ひと・しごと創生委員会を開催させていただきます。委員の皆様におかれましては、ちょうど年度末で、公私何かと御多忙の中でお時間をいただき、本日お集まりいただきましてほんとにありがとうございます。

　何か結構、比叡山からおりてくると桜がもう満開に近くて。大阪も杉花粉が多くて、きょうも鼻うがいをしてからここに来ました。皆さんもマスクが離せないとかいうのあると思うんですけども、２時間しっかり御議論いただきたいと思います。

　それでは議事に入ります前に、前回から、会議の議事録の作成の都合上、発言される前に手を挙げていただいて、お名前を私のほうから指名させていただく。というのが、議事録を書くときに誰の発言かがわからないということになると具合悪い。それから発言いただくということでお願いしたいと思います。

　では、事務局から本日の出席委員の報告を受けたいと思います。

○事務局　　御報告申し上げます。本日の出席委員は、定数１３名中８名でございます。

○委員長　　ただいま事務局から報告がありましたように、この委員会の条例第５条第２項の規定に基づいて、定員数に達しておりますので会議は成立しています。

　議事を始めるに先立ちまして、本日傍聴を希望する方がいらっしゃるということですので、入室を許可したいと思います。よろしくお願いします。

　それではまず、前回の、第２回の議事録の確認につきまして、あらかじめ委員の方には送付させていただいて、特に今現在、異議はいただいていないんですけども、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

　それでは、特段の異議がないようですので、前回お願いいたしました、議事録の署名委員の谷本委員と長谷川委員に署名をいただいて、議事録を決定したいと思います。事務局のほうもよろしくお願いいたします。

それでは、議題１について。まず、議題１は報告でございます。今年度に実施したシティプロモーションの関連する事業について。これは事前に資料を配付させていただいていますが、資料１に沿って、事務局から報告をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

○事務局　　着座にて、御説明させていただきます。

平成３０年２月１８日に実施いたしました、もりぐちヤングミーティングについて報告させていただきます。

このヤングミーティングは、３９歳以下の守口に在住、在職、在学の若者を対象に３０名を募集したところ、２８名。当日参加は２７名でございましたが、２８名の応募があり、守口のええとこ、守口が今後も住み続けたい街になるためにはどうしたらいいのかの２つをテーマに意見を出し合ってもらいました。

今回は、この委員会で御提案いただきました、ワールドカフェという形式を意識したミーティングとして開催しており、まず一つ、会場は会議室でなく、当館１階のコンビニ横オープンスペースを利用。１テーブルは四、五人の少人数制。各テーマごとにテーブルを移動して、できるだけ多くの人と意見交換をする。意見は思いつくままに発言し、まとめや結論は求めないというルールで実施いたしました。

また、初対面の参加者がスムーズに意見の交換を進められるよう、会話のサポート役となるファシリテーターにつきましても、職員間で研修を行い、当日に臨むこととしました。

午後１時より、守口のええとこをテーマにした前半第１ラウンドを開始。自己紹介から始まり、３０分の意見交換を経て、参加者はテーブルを移動。第２ラウンドとして、さらに３０分間の意見交換の後、テーブルごとの発表を行いました。

守口のええとこをテーマに出てきた意見は、資料に記載させていただいておりますが、そのほかに出された意見を少し紹介させていただきたいと思います。

地元密着のＦＭラジオがある。駅前がにぎやか。市役所の建物がきれい。これは市の顔となる建物がきれいなのは、市民として非常に喜ばしいという

ところからです。

治安が悪いと言われているけども、夜に女性一人で出歩いても危ない目に遭ったことはない。近くに鶴見緑地公園がある。幼児保育、教育が無償化。これは子育てに優しいまちでございます。

防犯カメラが 1,000 台設置されている。これも、治安のよさが今後、課題になってくるというところから提案していただいております。テレワークオフィスがある。守口市の水はおいしいなど、多くの意見をいただいております。

その後、休憩を挟みまして、未来の守口がどうなっていれば今後も住み続けたいと思うかをテーマにした後半を開始いたしました。前半同様、３０分ずつ、計２回の意見交換を行いました。ここでの意見も資料に記載されておりますが、そのほかのものを少し紹介させていただきたいと思います。

これぞ守口と言える何かがあってほしい。治安がよいまちの代表。趣味や志で集まるコミュニティーがあってほしい。若者向けの別冊の広報紙があれば。中小企業と、守口で働きたい若い人のマッチングをしてほしい、そういう機会をつくっていただきたいということです。

また、京都と大阪の中心地への中間地点でもございますので、どちらも電車で１本で行けるという立地を生かしたまちになってほしい。大学やベンチャー企業を誘致してほしい。大日など東部地域も活性化してほしいなど、ここでも多くの意見が出されました。

全体を通じて、おしゃれ感や清潔感、人との交わりや地元愛というキーワードが浮かんでくる印象でございました。

また、発表の時間に参加者が発言をされました、自分が守口について感じていることが、自分だけじゃなくて、参加者全員に共通して感じていることだったんだとわかったという意見は、非常に興味深い印象を受けました。

ヤングミーティング開催に際し、初対面の人同士で会話が弾むか、議論が白熱し過ぎてしまわないか心配もありましたが、終始和やかで、活発な意見交換がなされており、職員がファシリテーターとして準備しておりましたが、会話を促さなければならないような場面はほとんどございません。非常にいいミーティングとなったと感じております。

参加者に協力いただいたアンケートを見ましても、参加者全員から、ミーティングに参加してよかった、また参加したいという回答をいただいております。また、ミーティングを通じての感想や変化について尋ねたところ、こんなに多くの参加者がいて驚いた。自分の中にこんな守口愛があるなんて思ってもみなかった。行政に一方的に求めるだけじゃなく、一緒に何ができるのかを考えていく必要があると感じた。意識をするということが何より守口の魅力やブランド力を高める効果的な方法だと思った。まちのために自分にできることはないかと、自分の中を探し始めました。１回で終わらせるのはもったいないなど、守口について真剣に考え、守口に熱い思いを持った若者がたくさんいることもわかりました。

今回このようなワールドカフェ形式でのミーティングを初めて試みましたが、若い世代が自主的に参加し、自由に発言してもらえたことは、市民の生の声を聞く有効なスタイルであったと思います。

また、参加者の中で連絡先の交換など、横のつながりが自然と生じたことは、市民協働の観点においても、とても有意義なものであったと考えております。

今後もさまざまなテーマについて、若者世代の斬新な発想、意見を聴取する有効な場として、このようなミーティングを活用してまいりたいと考えております。

以上で、もりぐちヤングミーティング開催における報告とさせていただきます。

○委員長　どうも御説明ありがとうございます。

何か、面白い意見が、若い人たちの意見がたくさん出たようで。当日、若い世代の皆さんが楽しんでもいただけたように思います。

守口市も、予算とか市政的な判断もあるんでしょうけども、当日、若い人から出た提案とか意見を実現するかどうか、ぜひ前向きに、市の方針として考えていただきたいと思います。

今、事務局からいただいた説明につきまして、委員の方々、御質問とかコメントございますか。

○委員　まずは第１回、企画されるほうも手探りの中でされたと思います。

本当にありがとうございます。今こういう若い方々が、自分に何かできることはないかと考えていただいたという意見があったので、非常に有意義だったんじゃないかなと思います。そして、自然に横のつながりもできたということでもあったということで。

ただ一つ、何ていいますか、今の守口の現状をね。ちょっと誰か、講義というとかたいですけども、そういう課題となるデータ、情報を何か最初お示しされて、それで若い方にそれについてもちょっと考えていただくということを今後していただければ、もっと現実的な何か、行政にとって参考になるようなものが出てくるのかなとは、ちょっと今お聞きして思いました。

特に最初はこういう、一番いいのは委員長さんが最初に、若い者向けに、何かワンポイントお話ししてくださって、それについて進めていかれるのもおもしろいかなとちょっと思いました。

以上です。ありがとうございます。

○委員長　どうもありがとうございます。

ほかに御意見ございませんか。

このシティプロモーションというのは、もともとこの委員会の中で提案されて、実際に３年ほど前からこの委員会立ち上がってますけども、今年度、実行まできた。

今、事務局からの御報告もあったように、１つはこれ、今回、紹介なかったですけども、フェイスブックも立ち上がっていて。オンラインといいますか、それでこんなことやってるよというのも、結構、僕もいつも見せていただいておりますけども。非常に身近なところでこんないいことがあるとか、若い人がこんなことやってる、あるいはお年寄りがこうやってるとか、非常にきれいな写真が多くて、わかりやすい。

先ほども御意見があったように、オンラインというんですかね、実際に顔を見合わせて集まるというのが１回あって、どうも話を聞くと、変に偏った議論になってるわけでもなく非常にポジティブで。ぜひ、少ない予算だと思うんですけども、できるだけお金かけずに、こういうのを定期的に繰り返していただいたら、だんだんそういう輪が広がってきて。

ＬＩＮＥとかフェイスブックとかそういうので、オフラインの、いい意味

の友達の輪も。これがこういうオンラインで、実際に、カフェなんかで顔合わせて、あ、この人だったんだというと、これまた一層活発になると思いますので。ぜひ、これをいいきっかけにしてお願いしたいと思いますね。

ここに住んでる方もそうですし、ここで仕事をしてて結構通ってるとか、そういう方もジョイントできるような、夕方開くカフェとかね。そういうのも企画していただいたら。そういう方が、なかなかいいとこだな言うて実際にここに引っ越してくるとか、そういうこともあればね、非常にありがたいことやと思います。

ほかに御意見ございませんか。

○委員　よろしくお願いします。

若い人たちの意見を自由に聞ける機会があって、ほんとによかったなと思います。

今回は成人の方を中心にお話聞いていただいたと思いますけども、小さいうちから守口に関心を持っていただけるように、できればちょっと年齢を下げていただいて、小・中学生からまちづくりの作文の募集をしてみたり。またこれとは違う形で、皆さんの、いろんな世代の意見を聞いていただいたらなと思っています。

○委員長　どうもありがとうございます。

○委員　先ほどちょっと委員長おっしゃられたんですけれども、やはり今後につながっていくような、何ていうんでしょう、仕掛けというかそういうものがあるといいなと思います。

私の専門で言えば、道路とかの、新道路を整備するみたいなときに、こういう形で住民さんの意見を伺ったりとか結構あるんですけれども、そういう道路整備とかに関して言えば、最終的に、いただいた意見をできるだけ道路計画に反映するということが、最終的なというか、目的にもなるんですけども。やっぱり、こちらのコンテンツに置きかえると、聞きっ放しというか、やりっ放しになってしまわないような工夫が要るかなと思います。

だから、こういうときに参加していただく方のリターンというか、何を求められているのかというのが。直接的に政策とかに何かを、自分の意見を反映させたいと、そこまで思ってらっしゃらない可能性もあると思うので、参

加してよかったなというのがどういうものなのかわかんないですけど、その辺のリサーチとかされて、うまく回していくような工夫が何か確立できていくといいかなと思います。

以上です。

○委員長　どうも。

それと、報告聞いてまして、市から何かやってもらうというだけじゃなくて、若い方が、自分が守口に対して何かこう、ほんとは愛してるんだなという。何かボランティア的な、何かやらないといけない、やりたいとか、そういう御意見もあったように思うので。できたらこういうミーティングを繰り返して、次はこんなことをやってみたらどうですかとか、何かきっかけを、１つの種といいますか、そういうのをまちのほうから投げかけるというのも１つの考え方かなと思うんですよね。

いい意味でボランティア活動が盛んになりますと、やっぱりまちの健全化にもつながりますしね。そういうので、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

ほかに委員の方、何かありますか。

それでは時間も限られておりますので、次に、次のテーマとして、今年度に実施した事業について、資料２－１、２－２に沿って、事務局から説明していただきたいと思います。事務局、よろしくお願いします。

○事務局　配付しております、お手元の資料２－１と２－２をごらんいただけますか。

今回、総合戦略にも書かれております、魅力ある学校教育の提供の一環として、包括提携を結んでおります大阪国際学園さんの方と、コラボ給食レシピの開発プロジェクトということで今回実施しました。

守口市では、給食のＰＲですとか、中学生にとって給食がさらに魅力的なものになるように、また守口市の魅力につながるよう、そういったところを目的にこういったプロジェクトを実施しました。

２－１のほうを見ていただきますと、守口市と大阪国際学園の学生が一緒にレシピを開発します。そのレシピを中学校給食、または調理の委託業者と打ち合わせしながら、中学校の学校給食の実施に努めました。

今回、中学校の学校給食、食べてる生徒さんが少ない。その大半以上はお弁当を持ってきているんですけれども、給食ですね、食べてる子を増やしたいというところもございまして、このような形で実施しました。

今回、２月に３食ですね。資料２－２の左下のところです。献立紹介というところで、今回タイ風の給食ですとか、あとは２月１５日ですと、鳥料理中心の給食ですとか。２２日につきましては、韓国料理を中心とした献立の方ですね、こちらの方を作成する形となりました。

まさにこういったところが、大学生ならではの視点ではないかなと思っております。本来、給食でしたら多国籍といいますか、こういったメニューは出ないんですけども、今回、学生たちが外国の料理ということでこのような実施にしました。

またその横、大学生の意見といたしまして、本来なかなか給食の献立を考えることもないので、カロリー制限ですとか塩分の制限ですとか、そういったところ苦労しましたというところもありまして。また、実際調理の方法ですね。学校給食のほうでは結構、提供するに当たって、調理のほうも厳しいところがありますので、その調理方法なんかも悩みながら考えたようです。

また、２月８日に私もこの大久保中学校に行かせていただきまして、学生と生徒さん、一緒に給食を食べました。ちょうど、右下の写真が当日の絵になるんですけども、中学生と大学生が一緒にテーブルを囲んで、楽しそうに食べてるなという印象を受けました。

食べた中学生に関しまして、またこういった給食も食べてみたいと、非常にちょっと興味を持っていただいたかなと思っております。

また当日は、一番右下ですね、取材ですね。Ｊ：ＣＯＭさんですとか、ハナコさん、ＡＧＯＲＡさん、日日さん、号外ネットさん、さまざまな取材に来ていただきまして、紙面にしていただきました。まさにこういったところも、何かをプロジェクトするに当たって、シティプロモーションの要素を加えながら実施したところでございます。

以上です。

○委員長　　どうもありがとうございます。

この件につきまして、委員の方から、何か御意見等、あるいはコメントご

ざいますでしょうか。

○委員　　よろしくお願いします。

主としての、給食と弁当があって、給食を増やしていきたいということですよね。私の知識不足で申しわけないんですけども、給食を増やすことによってどんなメリットがあるのかって、ちょっと教えていただけると。

○事務局　　もともとの概要を先に説明させていただきますと、大体、弁当を持ってきていただいてる生徒さんが８割近くいてまして、残りの割合です、大体残りが２０％ぐらいになるんですけども、そのうち大体１７％ぐらいが給食、今、食べてますと。残りの数パーセントの方はパンだけとか、食としてはあまりよろしくないような形の生徒さんがいてまして、そういった生徒さんをターゲットといいますか、給食を食べていただければ、ちょっと栄養士が考えた栄養を摂取できるというところで給食をふやしたいというところがあります。

弁当のはそのままで、市としては特に問題はないかなと考えております。

以上でございます。

○委員長　　ありがとうございます。

○委員　　済みません。

その数パーセントの方は、なぜ食べてなかったのかというのはわかりますか。

○事務局　　ちょっと詳しいデータはないんですけども、学校のほうから聞いてる状況によりますと、家庭環境ですとか、ほんとに食に興味がないとか、そういったところではないかなと。ちょっとデータはないんですけど、そういった意見は聞いております。

以上です。

○委員長　　ちょっと横から補足ですけども、大阪についてはちゃんとした調査がされてるかどうか、僕はちょっと知らないんですけども。日本の栄養士の会があるんですけども、そこが、東京都の２３区を中心に、いろいろ調査をしてまして、その中で、実は給食というのは、小学校給食、中学校全部、基本的に給食を食べるというような都道府県とか市町村もあるし、その一方で、この守口市のように、基本的には弁当なんだと、ただ、場合によっては

給食もチョイスできるという場合もあるんですね。

非常に大雑把な話で恐縮ですけども、弁当は弁当でいいんですが、特に、中学、高校生。高校生まで入ってしまうんですけども、女子の方で、異常に貧栄養というか、結局、ダイエットとか美しくなりたいとかそういう要因があると思うんですけども。で、非常にバランスが悪いというようなことが東京のほうでは問題になっています。

だから、できることなら、ちゃんと栄養を計算された給食をとって。ただそのときに、給食がおいしいとか、おいしくないとか、そういう問題も起こるので。こういう、できるだけ、中学生だったら中学生、小学生だったら小学生が喜ぶようなメニューにして、完食させるというんですかね。

僕が子供のころは、完食しないと帰してくれなかったですけども、今はもう何か、全部食べなさいと言ったらこれは児童虐待になるというので、食べなくていいよという。そうすると、ものすごく残飯が残ると。これまた別の問題が起こったり。結構、給食というのは重要なことになってきています。

これも直接の因果関係は難しいですが、非常に、小学校から高校に向かって、男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく体が変わるんですけども、そのときにものすごく栄養が足りない。マルニュートリションというんですが、悪い栄養状態ですと十分に成熟できなくなって。そうしますと今度、子供さんを産むころに、女の人ですと、骨盤の発達が十分じゃなくて。

これは、小学生ぐらいは男女の体の違いってないですよね。これ骨盤がぎゅっと大きくなるのがちょうど中学生から高校生ですけども、このときに栄養が十分にないと、それがちゃんとできないというケースがあるんですね。そうすると、出産事故ですとか、帝王切開でないと産めないとか、こういうふうな１０年、２０年たったときの、また別の問題もある。

ですから、この中学生ぐらいの給食というのは、ほんとは非常に重要ですけども、非常に軽視されている状況にあります。

ちょっと要らんことを言いました。済みません。

やはり一番そういう関心が高いんじゃないか。いかがですか、こういうことは。

○委員　　コラボ給食レシピのアイデアメニュー自体はすごくいい取り組みじ

ゃないかなと思うんですけれども、先ほどの、言っておられたように、お弁当になっていた経緯というのが、多分、いろんな問題が給食であるからだと思うんですね。給食費を払わない親がいるとか、子供さんもやっぱり好き嫌いというのがすごくふえていると思いますので、そういった問題をやっぱり解決しながら給食へという方向になっていけばいいんですけども、なかなか多分、教育機関の皆さんも御苦労されている部分だと思います。はい。

○委員長　　どうもありがとうございます。

ほかに御意見ございませんか。

私が今、勤務先の大学の学生さんたち、主に栄養士のコースの学生さんたちがいろいろやっていただいて、僕が言うと何か、自校宣伝というか、我田引水と、そんな感じになってちょっとあれですけども、学生さんたちに、このメニューをつくらせていただいた学生さんたち集まって聞いてますと、非常に喜んでいて。

結構地元の子が多いですよね。守口市だけじゃなくて、門真市とか寝屋川市、この近隣の出身の子たちが多くて。自分たちが中学生のときには、まずいとかぶつぶつ言ってたのが、こんなに給食をつくるのは大変だというので、逆に意識が高まって、大学としては非常にありがたいプロジェクトだったかと思います。

ただ、中学生の方のアンケート、これ正直なアンケートなんですけど、僕らからしたら資料２－２の２番で、今後もコラボ給食を実施してほしいですか言うたら、はい、言うのが１５名と期待してたんですけども、何か、いまいちなんかなと思ったりして。そういうのもあるんですけども。

やはり地元にあるいろんな大学とか短大とか、高校もそうですけども、やはり地元の行政ともいい意味でコラボさせていただくことで、何か地域に具体的に貢献できるということが非常にありがたいと。学生さんも、就職先をやっぱり地元にしようというような考えが出てくるんですね。

今の、実は、学生さんたち、いろいろと意見、就職についてアンケートを見ると、みんな東京に行きたいんですよ、実は。実は、大阪でいたいという学生さんは、非常に、びっくりするぐらい少ないんですよ。皆さん、何か東京に行きたいと。ですからこういう関係があると、あ、大阪で仕事してもい

いかなという人もふえますので。

結構、皆さん、転勤族の方もいらっしゃいますけど、ずっといる方は、自分が大阪でずっといるから、もう大阪でいるもんだと思ってるんですけど。大学生は卒業するときに、次、新しい、地元でいる人もいるんだけど、僕がこう意見聞いてたら、びっくりするぐらい東京に行きたいという意見が強いですね。どうして言うたら、何かいいことがありそうだ。ないよ、そんなもんと言うんだけど。

そういうこともございますので、こういう地道な活動が一つ一つ繰り返されるということは、やはり守口市を、将来的に、若い人が定着すると、そういうことにも役に立つんではないかと思っております。

あんまり僕がしゃべるとこれ何か、ほんとに自画自賛みたいになりますので、このくらいで。

○委員　　じゃあ、１つ済みません。

就職のお話が出ましたので、これも手前みそになるかもしれないですけど、一応、門真、守口この地域については、守口市さんのほうでも匠の資料をつくっておられるように、ものづくり。東大阪ほどクローズアップされてるわけではないですけど、実際には、ほんとにものづくりの事業所さんが多くて、市役所の下にもいろんな展示品があるように、私どもも、できるだけ、その辺はプッシュしたいなということで。

ちょっと単独ではなかなか数が集まりませんので、大阪労働局、私どもの上部団体ですけれど、大阪労働局のほうで、わかものハローワーク、それから新卒応援ハローワークというのが大阪の梅田のグランドビルにございまして、こちらのほうで、世界一、日本一企業集まれということで、そういった企業さんにも御参加をいただきながら、今回は２１社にお集まりをいただきながら、地元のＰＲというのはほんとに力を入れてやっております。

東京集中というのは新聞でも報道はされておるんですけども、大阪のよさ、それから守口のよさということで、そういったことで、企業さんのＰＲをさせていただきながら、学生さんなり、そういう。企業説明会であるとか、将来的には面接会なんかもちょっと展開していきたいなとは考えておりますので、また、よろしくお願いいたします。

○委員長　　どうぞよろしくお願いします。

これもちょっと余談のような話で恐縮ですけども、学生さんたちに、どうしてそんなに東京に行きたいのという話をすると、吉本興業の芸人さんが大阪で頑張ってて、いいやつが東京に行くと。何かそういうイメージを持ってますね、言い方悪いんやけど。だから自分も、ここで大学終わって、東京に行ったら何かいいことがあるかなというような、そういうふうなことが、イメージですよ、持たれてるというようなのがあって、僕は正直びっくりした。おまえ芸人違うやろうと言うたりもしたんですけども。何かそういう雰囲気が、意外に今の若い人の間で。僕は、このあたりの人は、もうちょっと大阪に対する愛着があるんかなとずっと思ってたものですから。僕はどうせ四国の田舎者だから、どうせ出ないといけないという意識があったんですけど、正直ちょっと驚いたりして。

だからそういう、ハローワークさんを中心に活動していただけると、日本一とか世界一のこんなんもあるんだよということを知ると、やっぱり地元愛も出てくるんじゃないかなと。

○委員　　そうですね。やっぱり自動車なんかは特にそうですけど、結構部品って共通だったりしますので、目にするような自動車のパーツがほとんどこの企業さんだったりということは多々ありまして。

そういったところを各ブースの中でも御紹介はされてたり、社長さんみずから来られて企業のお話をされたりということはございました。ちょっと、来ていただける企業さんの数が、ある程度限りがありますので、そのあたりが、年間を通じていろんな事業所さんと接点を持ちながら、御案内できるときにはさせていただこうかなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○委員長　　ほかに、委員の方から御意見ございますでしょうか。何か。

○委員　　はい。

学生さんと個人的にもいろんな情報をいただくこともあるんですけれども、最近、学生さんとちょっとお話ししてるときに感じたんですけれども、何ていうんですかね、自分の将来を見て、大人の社会人と絡んでいきたい人というのと、そうじゃない、ただ学校にいてるだけの人というの、すごく二分す

ると思うんですね。

出ていきたい人というのは、幾らでも自分でどんどん探して出ていきますし、そうじゃない人というのは、やっぱり大学の中に閉じこもってしまいがち。ただ、そういう人もやっぱり、きっかけがありますと地元の人とかかわっていきますし、地元の人とかかわると、何かここで新しいことができるんかなというような希望みたいなものを感じるかもしれないですよね。

特に国際学園さんなんかは、先生が、教授がおいでになるのに言うのはあれですけれども、やっぱり外から来られてる方がすごく、県外から来られてる方が非常に多い印象ですし、国外からも来られてますし。やはりそういう、外から来られた方に、守口に定着していただくような取り組みというのはすごくいいのかもしれないですね。

○委員長　どうもありがとうございます。

○委員　前回、欠席してしまったんですけれども、外部講師さんからいろいろお話があったと、議事録を拝見しながら理解してたんですけど、守口市内でああいうプラットホーム的なというか、中間組織的な方々のリストとかっていうのは、何かあるんでしょうかね。

ああいう、何ていうんでしょう、今回のこういう給食のプロジェクトも例えば、大阪国際学園さんがやりたいと言ったら割と参加しやすいような環境にあるのかというか。要は、政治的にがちがちに縛られていて、やりたい人がうまくそういう機会をつかめないとか、やるという意思表示しても結局できないじゃないのみたいな、そういうことになるともったいないような気がするので。その何か、中間組織さんみたいなのがあれば、うまく芽ができたものを育てて、実まで回収するというか、そういうことができるかなと思うので、うまく連携するような方法とか、制度的に何か難しいところがあるのであれば緩和してあげるとか、そういう、１つあるのかなと思います。

あと、この給食に関して言えば、今は大学さんと中学校のコラボですけれども、行く行くはＰＢＬみたいな授業というか、プロジェクト・ベースド・ラーニングみたいな授業も最近はやってきてますので。中学校の３年生が、自分で自分の学校の給食を、ある１日だけつくってみるとか、そういう取り組みとかにも展開できるというか。学校対抗みたいなので、メニューの何か

そういうの。それはちょっと、どっちかと言うと、お祭り色が強いですけど、日ごろの食育というよりは、地道なことも必要かと思うんですけど、何かいろいろやり方というか、工夫できるところもあるかと思うので、いろいろ意見があれば、住民さんからの意見があれば、そういうのをうまく制度緩和につなげていくというか、そういう取り組みもあってもいいんじゃないかなと思いました。

○委員長　　どうもありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

最後にもう一件、自分の勤めてる学校の宣伝で済みません。去年からやはりこういう市の、こういう僕も役をさせていただいて、やっぱり一番最初の年に市民の方にアンケートをとっていただいたときに、交通の便がいいとかそういう意見はいっぱいあったんですが、教育ですとか、雰囲気がよくないとか、そういう御意見もあったんですね、実際。それで、魅力ある学校教育の提案というのも大きい柱にしましょうという経緯があったと思うんですが、今、大阪国際学園がある、その近くのよつば小学校の校長先生を初め、あるいは市の社協の方にも御支援いただいて、キッズキャンパスって、今のとこ月に１回ぐらいしかできてないんですけど。

土曜日に朝から夕方まで、午前中はお勉強を、お昼はちょっと御飯を食べて。できたらインドネシアの料理とか、ベトナム料理とか、こういう珍しい、日本人が食べられるようなものを提供したいと思ってるんですが、まだそこまでいってなくて。カレーライスとか子供たちが好きなもの。最初に変なものを出したらもう来なくなるかもしれない。昼からはちょっとダンスとかスポーツをやるというようなことをやってて。毎回、大体５０人ぐらいの方に来ていただいて。

南山城って、ずっと山奥のほうに、田植え。ちっちゃい田んぼつくって、田植えとか、稲刈りとかそういうことにも来ていただいたんですけど、結構好評をいただいてて。

お金のこともいろいろあるので、できる限りしかできないですけども、そういう形でも。やはりここの守口市に置いてる大学とか、小中高そうだと思うんですけども、やはり教育の雰囲気をよくするということで、コラボできればありがたいなと思ってます。また、よろしくお願いします。

何か自分のことばっかり言うて、ほんとに恐縮です。では、次あの。

○委員　済みません、いいですか。今の給食のことでちょっと感想を。

ここに大学生の意見、塩分制限とかそういうのをちょっと、栄養面とかしっかり考えてくださる機会になったと思うので、健康についてしっかり考える機会にもなってると思います。これがいいなとちょっと思いました。

私は、この委員に申し込ませていただくとき、守口の課題として、たしか教育と守口市民の健康というテーマでレポートを出させていただいたかと記憶してるんですけども。守口市民、成人はちょっと生活習慣病が多いんですね。がん、血圧、糖尿病、そういう方々が多いエリアですので、守口に限らず門真もですね。そういう大人の方になってから、そして御病気になってから、食生活とかいうのも悪くはないんですけど、やっぱりちょっと時間的にすぐ改善できないので、やっぱり中学生、高校生、小学生のあたりから、自分の食べるものについてしっかりと考えるという力をつけてほしいなと思っておりましたので、これは非常に。大学生の方がメニューを考える、で、中学生の方にも食育について考える機会があるので、非常にいいプロジェクトだなと思いました。

ちょっと守口の給食、ちょっと塩分、他の市町村に比べると高いんですよ、これは調べますと。もちろん文科省の基準をすごくオーバーしてるというものではないんですけども、全国的に見ていただくと、一歩、二歩先を行くまちがあるんです、給食に関して、塩分について。というのが、やっぱりそこの、成人の方の御病気の深刻さ。要は、医療費も高くなるというまちですけども。

例えば、具体的に挙げると、広島県の呉市なんかはすごい給食に力を入れて、大人になったときに成人病にならないような食生活のメニューを子供のころから、塩分少なく、いわゆる、薄味になれさすという取り組みをされてますので。やっぱり健康じゃないと、生き生き、まちは活性化していかないと私は思いますので、やっぱり健康面も。もちろん、何ていいますか、個人とか親が、食育は一番中心になって進めていくべきですけども、企業、行政、官民一体となって、塩分についてちょっと、何か適切な取り方をできる環境にしていければなと思いました。

イギリスなんかは、ＮＨＫで見ますと、すごい企業もレストランも行政も全部取り組んで、年々、知らず知らずのうちに塩分を少なくするような取り組みで、病気になる率を下げてるということも聞いたことがありますので。各個人レベルではちょっとなかなか難しい、これだけの飽食の時代ですのでね、いろいろすぐに買って食べられますのでね。

済みません、以上です。健康についてもこれはいいなと思いました。感想です。はい。

○委員長　　ありがとうございます。

おっしゃるとおりで。お弁当とか、僕も自分がそうなんで偉そうに言えないですけど、自分が好きな物を食べてるとつい偏ってしまう。その地域にもよるんですけども、確かにちょっと塩、塩分多めの食事をずっと家庭でやってて、当然そのお弁当も多い。そういうふうに体がなれてしまって、やがて５０、６０になると何かこう血圧が高くなって。それでもぷちんと切れなければいいんですけど、何かこう体がちょっと不自由になっちゃうとかというようなケースが多いのも事実です。

僕は香川県の出身でして、香川県の人は讃岐うどんやめたら健康になるんだと言われてるんですけど、ちょっとやめられない。でん粉の取り過ぎと塩分の取り過ぎで。ほんとに全く偉そうに言えないんですけど。子供のころからの食習慣とか、学校給食でやっぱり今回もいろいろと。

この学園の中に中学校があるので、中学生に食べてもらって、いろいろ、先立って調査したんですよ。やっぱり味が薄いと言われました。皆さん弁当を食べてると、やっぱりお母さんの味というか家庭の味で。だから、おいしいんですけども、塩分がちょっと。学校給食というのは一応ルールで、上限このぐらいですよって、結構上限に近くても味が薄いとか、そういうのがある。だからおいしくないというのは、確かにあるんですね。病院食がおいしくないのと同じで。

だからやっぱり、そういうこともまた参考にしていただいて、健康とかそういうことで取り組んでいただけたらと思います。よろしくお願いします。

それでは次に、次年度ですね。どういうことを予定しているか、事業につきまして。これ一番重要なポイントだと思うんですけども、事務局から説明

をいただきたいと思います。お願いします。

○事務局　それではお手元の資料３の産後ケア事業に沿って、御説明させていただきます。

産後ケア事業は、初めに事業の目的としまして、核家族化が進む中、出産退院後に保護者の方、特にお母さんにとって全く経験のない育児を開始することとなりまして、育児や子育てのスタートのときに大きなストレスを抱えることがあります。

また、母体が十分回復していない時期には、産後鬱等の心身の不安定な状態ですとか、体調不良などが起きやすく、お母さんのセルフケアが必要になるということです。

このために、より安心して子供を産み育てできるように、産科医療機関または自宅で助産師等の医療専門職の方にお母さんの身体的な回復ですとか、心理的な安定や、セルフケア能力を身につけるとともに、お母さんと赤ちゃんとその御家族が健やかな育児支援を受けられる環境を整えようとするものです。

実際にやる内容についてですけれども、事業概要、内容に書いてあるとおりですね。お母さんの体のケアということで、保健指導ですとか、栄養指導ですとか、お母さんの心理的なケアですとか、あと授乳のケア等を、育児についてのいろいろな相談ですとか指導をすることを考えております。

対象者は、４カ月までの乳児を対象としまして、さらにお母さんが身体的な不調があるですとか、そういう不調があるけれども、身近に相談相手がいない方を対象としております。

具体的な実施方法が、裏面の３ですけれども、２タイプありまして、１つが実際に自宅まで行くという「訪問型」で、助産師が実際の、そのお母さんの家まで行くということで、利用回数は親子一組に３回まで。１回２時間。自己負担額として、１回当たり１，０００円をいただくことを考えています。

２番目の「宿泊型」が、市が委託した産科医療機関を利用する。具体的に言うと、松下記念病院を想定しているんですけれども、そちらで利用が６泊７日までということで考えておりまして、自己負担額が１泊２日で４，０００円。その後、追泊するごとに２，０００円増しで考えております。

この事業の実施時期が、いろいろな事前準備がありますので、秋ごろから開始できればなと考えております。

以上です。

○委員長　どうもありがとうございます。

この件につきまして、委員の先生方からコメントとか御質問ございますか。

○委員　産後ケアというのは、すごい女の人にとってはもう大事な事業だと思うので、このまま進めていただくということで、いい意見が出てるんじゃないかなとは思いますけども、これを使うに当たって、お母さんにも心の準備とかっていうのが必要だと思うんです。なかなか日本の場合、こういうのを使うというのは理解されてない現状があるので、もっとこう使いやすいように、こういうケア事業あるんだよということを、守口のほうからしっかり広報していただくというのと。あと、それを使われた方に、実際体験談とかを妊婦さんに向けて話してもらう機会というのをつくっていただけたらと思います。

産後４カ月までということですので、それ以降のケアについて、ファミリーサポート事業があるんだよということも、いろんな支援、こういったところで支援を受けれるんだよということもあわせて、上手に広報していただけたらなと思っています。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

このやっぱり４カ月というのは、予算的な問題でしょうか。それとも一般的に４カ月ぐらいでしょうか。

○事務局　新生児のこんにちは赤ちゃん事業とかですね、新生児訪問なんかについては引き続き取り組みをさせていただいて、他市の事例等も参考にしながら、今回、４カ月までということで判断させていただいたところでございます。

○委員長　一番最初の、３年のこの委員会の初年度に、事務局の方からこういった現状の説明があったときにですね、事務局側から、実は守口市は非常に手厚く、この近隣で比べるとやっているんだという説明があったと思うんですね。ただ、そのときに、そういうことが市民の方とかに十分伝わってる

んだろうかという疑問が委員会からあったかと思います。

これも、この文章を読ませていただいたら、なるほどと思うんですけども、実際に何も知らないお母さんがぽっと見て、こういうふうにしたらいいんだなとわかるような、ちょっとわかりやすいパンフレットというか、そういうものを準備していただいて、産科のお医者さんのところなんかでフリーにとれるようにしていたらと。予算的にどうかと思うんですけど、そういうのがあると助かるかなとは思いましたけど、そのあたりは御検討いただけますでしょうか。

○事務局　貴重な御意見ありがとうございます。今現在、新年度の予算が確定しまして、今度３月２３日の本会議で最終の議決をいただく運びとなる予定でございますので、新年度早々というわけにはいきませんけれども、次年度、次々年度以降、そういった取り組みを進められるように、担当課ともしっかりと調整していきたいと思います。

○委員長　よろしくお願いします。

ほかに、委員の方から何か御質問あるいはコメントございますか。

○委員　質問が１つだけあります。

この説明の中に、施設ですよね、産科医療機関という。私のとこにも３０年ぐらい前に一応出産は、家族で経験しているんですけど。かなり新聞なんかを見てますと、医療機関。そういうちょっと出産をする施設というか、医院がかなり減っていると。だから、ほんとに出産だけをしに、病院に通われる方と。少し以前と、流れがかなり、スポットで出産しに行くという形態がふえてるように思うんです。

今、全体ではそういう周知というところがありますので、もちろん長期に、定期的に受診をして出産をされるパターンと、ほんとにこう出産だけは病院でされるというような形態がありますので。ちょっと広報については、いろんなパターンを想定しながらでないと手元まで情報が行きにくいのかなという、ちょっと心配するところがありますので、ここは市さんから医療機関それぞれにやっぱり手を尽くして、周知というところを力を入れないとなかなか届きにくいのかなと。まあ医院が減ってるという情報だけで私はあれなんですけど。実際にはかなり減っているんでしょうか、それは。

○委員長　はい。

○事務局　今回の、産科医療機関の対象と今回なるのが松下だけです。

○委員　それは、この委託をされるところですね。

○事務局　そうです、はい。ただ、今回の対象は松下だけということになっております。

○委員　わかりました。

○事務局　補足ですけど、松下記念病院さんはもう既に、独自といいますか、市が介さないような状況で、既にこの産後ケアは実施されているんですよ。もちろんその利用者全額負担ですけれども。そういったノウハウも非常にお持ちだということで、そこに行政として、今回は一緒に参画させていただいて、市の事業としての位置づけでお願いするところでございます。

○委員　周知、広報ということをおっしゃっておられたんですけど、ちょっとそこも工夫をしていただければと思います。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

この委員会自身の大きい設置目的の１つが、やはり長い目で見ると確実に減っていく人口減少。人口減少を食いとめるためには、やはり新たに若い人たちに来ていただいて、ここで、出産して子育てをしていただくということが１つの重要なポイントだろうということで。この産後ケア事業というのは非常にいい意味で前向きな事業だと思います。先ほど、委員からも御指摘していただきましたように、やはり実際に住民の方というか、お母さんになられる方に、早め早めに、いかに的確に情報が伝わるかというのは重要かとは思うんですね。

結構、知らないままに子育てに悩んで、何か泥沼に入るという方も多いかと思いますので、ぜひよろしくお願いします。

ほかにございませんか。

○委員　今の産後ケア事業について１つ質問させていただきます。

大体何名ぐらい、また何パーセントぐらいの利用を、何か予測してるものはありますか。

○委員長　事務局お願いします。

○事務局　今年度の予算としまして、まだどれくらい来るかという想定はできてないんですけれども、３０年度の予算としまして、先ほどのタイプが、１番目の「訪問型」については、１回で終了される方ですとか、二、三回継続される方とか、いろんな方いらっしゃるかと思うんですけれども、回数としては、１０月ぐらいから開始の予定なので、７５回で考えております。２番目の「宿泊型」の分につきましては、１年間で見ると、６件。６人の方が６泊されるんではないかというところの半年間というので、今ちょっと計算をして予算取りしておるところです。

○委員長　ありがとうございます。

　これ、女性の目から見て、人がやってくるのは嫌だという方もいるんじゃないですか。そんなことはないですか、家の中に。

○委員　ほんとに個人差があると思いますね。

○委員長　宿泊型というのは何かわかりやすいんだけど、何かようわからん人がやって来たとかいうようなこと、どうなんかなと。

○委員　でも、使われてる方は、やっぱり１人で子育てされてて、御実家が遠いという方で、お風呂の入れ方とか、そういうもんがすごい、御主人の協力がなかなか得られないということで使われている方いらっしゃったので、はい。知ってる方は、こんにちは赤ちゃん事業とかでも。

○委員長　やっぱり訪問型のほうがいいんでしょうかね。

○委員　どうですかね。

○委員長　要らないことで。御主人の協力が得られなかった典型なものですから、僕はいまだに言われるんです。あなたは何もしなかったって、ずっと言われる。

○委員　質問なんですけど、よろしいでしょうか。

　今まで、こんにちは赤ちゃん事業をされてて、市のほうはどのような形で妊婦のお母さんたちにアプローチされていたのかというのを、概要を教えていただきたいんですけれども。

○委員長　よろしいですか。

○事務局　済みません。ちょっとまた確認して、報告せていただきます。

○委員長　了解しました。

○事務局　詳細はまた後ほど調べてお答えしますけども、市民保健センターのほうで、御存じのように保健師を配置しております。成人病の担当と、それから母子保健の担当に分けておりまして、本市におきましては、他市に比べて、保健師の人員配置というのは非常に手厚くこれまでもさせていただいております。その背景といたしましては、市民保健センターという、大宮通にあります大きな建物で、特定健診なんかも集団で健診を行っているような経緯もありますので、一定そういう背景もあって、人員配置についても厚くしてきたところです。

いずれにしましても母子保健の観点ですね、これまでも妊婦さんからの御相談であるとか、そういうのは適切に対応してきたところですけど、今後、国のほうが進めております、包括的な支援センターの設置が平成３２年度、全国展開を国のほうも目指されてますので、本市としましても、今現在の母子保健を担当しているところと、組織的には今、こども部という部がございます。保健センターのほうは、もう健康福祉部ということで、若干縦割り気味にもなっておる部分がございますので、より強固な支援体制というか、そういったところの構築を目指していきたいと、そのように考えています。

○委員長　ありがとうございます。

最初、このパンフレット、資料３のパンフレットをさらっと見せていただいて、下のほうにあるように、乳児家庭全戸訪問事業。何か、訪問というのが頭の中にぽんと入ってしまって。裏を見ると、確かに訪問型と宿泊型があるんですけども、人にもよると思うんですが、実際、自分の家に助産師の方が来ていただくほうが実際うれしいという方もいるでしょうし、人が来るのは嫌だという方もいらっしゃるかと思うんですね。

だから、宿泊型もあるんだよということがもう少しわかりやすいような表現がもしあれば。そんなの書くと、うだうだ長くなって、結局もっとわけがわからなくなるという可能性もあるのかもしれませんけども、何かわかりやすいような、もう一工夫いただけたらありがたいかなと思います。

ぐじゃぐじゃと何かいちゃもんをつけて済みません。ほかに委員の方から御質問とかコメントございます。近藤さん。

○委員　具体的なＰＲ方法とかについては、今の守口市民さんだけじゃなく

て、ほかの市民さん、人口も今後ふやしていきたいということだから、もっと近隣他市や、全国的にも守口市というのは子育てに対して手厚いということをどんどんアピールしていければいいんじゃないかなとは思っています。

あと、この宿泊型のところで、６泊７日というのは、僕にとって１週間も滞在するというのが。１泊から選べるというところで、６泊も利用されるというのはどういう形なのか。１泊で十分なこのケアの、お風呂の入れ方とかというところは完結できる話なんじゃないかなというふうに、この１泊から選べるということは、そういうことじゃないのかと思ったんですが、この６泊選べるという形はどういうことなのかなというのがちょっと気になりまして、質問させていただきたいと思います。

○事務局　いろんな想定はできると思うんですけど、当然、医療機関でございますので、医療の部分と今回のこのケアの部分というのは分けて考えないといけない部分もあり。また、例えば出産後に身体的にいろんな御負担がありますから、妊娠時の中毒症の経緯とかも当然あると思いますし、そこらあたり、医療面と今回の心理的なケアであるとか、いわゆる、どう言ったらいいんですかね、医療保険外の事業と医療の部分というのは、なかなか切っても切れない関係が出てくる可能性もあるとは思うんですよ。そこらあたりも想定しながら、大体１週間程度をマックスと考えているところでございます。

○委員長　どうもありがとうございます。よろしいでしょうか。

それでは他に御意見がございませんようでしたら。ただ、今の皆さんの議論の、あるいは意見を踏まえまして、事業の実現によりポジティブに進めていただきたいと思います。よろしくお願いします。

それでは、議題２でございますけれども、案件の２、その他に移りたいと思います。事務局のほうから説明いただいて。事務局、お願いします。

○事務局　本委員会でございますけども、本日が今期の最後の委員会となりますことから、次年度以降のスケジュールですとか、個別の重点テーマについては新たな委員の方を選定させていただいて、また新たな委員長と相談させていただきたく思っております。

また、本日の議事録についてですけども、３月３１日で皆様任期終了になりますが、恐らく議事録ができあがるのは４月以降になろうかと思っており

ますので、署名委員のほうに伺わせていただいて、署名いただこうと思っておりますのでよろしくお願いいいたします。

以上でございます。

○委員長　どうもありがとうございます。

ただいま事務局のほうから説明いただきましたように、次年度のスケジュールですとかテーマにつきましては、次期の委員長のもとで本委員会が進められるということですので、ぜひいい形で展開をお願いしたいと思います。

なお、今日の議事録の署名人でございますけども、川上委員と吉岡委員にお願いできればと思いますがよろしいでしょうか。では、よろしくお願いします。

◇　各委員からあいさつ

○委員長　ほんとに３年間ありがとうございました。事務局の方は現実に、ヤングミーティングですとか、給食の改善とか、一つ一つできることを手を打っていただいて。保育にかかわるような制度も、一個一個進めていただいて、どうもありがとうございます。だから、人口増えたんだと偉そうに言いながら、いい気分で最後を迎えられてうれしい。

最後にぜひ、先ほどのヤングミーティングなんかでも、やっぱりもう少し地元の人が、自分ができることをやりたいと。そういうふうな意見も若い人から上がってますので、それをいい形で吸い上げていただいて、このまちを活性化するのに、ぜひ頑張っていただきたいと思います。少しお役に立てたとしたら、非常にうれしいとこです。

それでは、委員の皆さんも、今後とも守口の創生を見守っていただいて、守口市の一層の御発展を祈念したいと思います。

それでは、これで閉会にさせていただきます。

◇　午前１１時３０分　閉会

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～